

令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和6年4月16日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

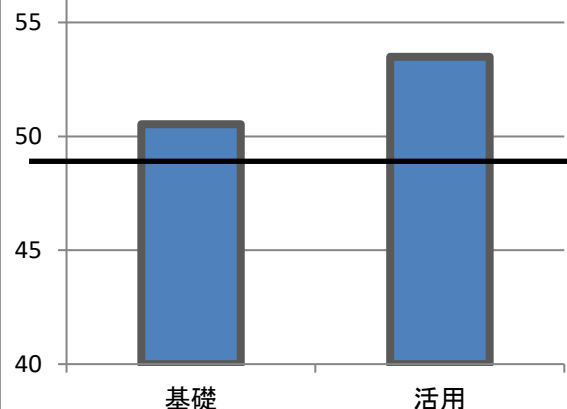
<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

学校名 品川区立三木小学校

国語に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



目標値を50としたときの
本校平均正答率の割合

【考察】

国語全般の平均的な力はあるが、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように、話の内容が明確になるよう書いたり、登場人物の心情を読み取ったりすることに課題がある。接続語、主語と述語との関係や段落相互の関係などの文章の構成について理解する力の定着を基に、自分の考えを分かりやすく伝える力や文章を読み取る力を伸ばしていく。

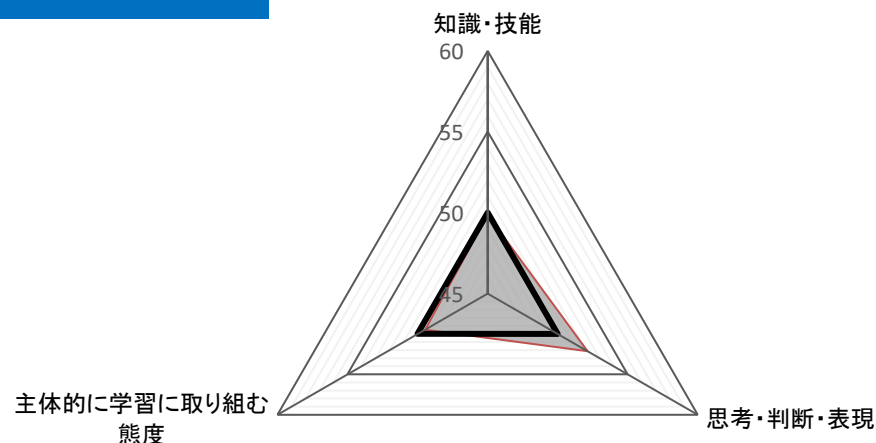
【今後の方策】

国語の基本的な知識や技能については三木タイムや家庭学習、各教科の指導の中で定着に向けての機会を増やしていく。

自分の考えを分かりやすく伝える力や文章を読み取る力については、多様な本や文章があることを知らせ、読書の幅を広げたり、話し合いの活動を通していろいろな考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしていく。

【次年度の目標】

各学年が全ての観点別正答率について、目標値を上回ることを目標とする。



課題と指導のポイント

【第2学年】経験したことなどから話題を見付ける

身近なことや経験したことなどを想起し、それらの中から書きたいことや伝えたいことを見いだすことに課題がある。学校や家庭、地域における身近な出来事や自分が経験したことなどについて、日頃から友達と話をしたり、日記を書いたりする活動を増やしていく。

【第3学年】登場人物の行動や気持ちなどを叙述を基に捉える

叙述を基に登場人物の気持ちや行動を読み取ることに課題がある。行動や会話、地の文から登場人物の行動や気持ちが分かる部分にサイドラインを引いて、複数の叙述を基に行動や気持ちなどを捉えられるよう指導していく。

【第4学年】自分の考えが明確になるように書く

情報と情報との関係について理解し、書く内容の中心を明確にして文を書くことに課題がある。文章を書くときには、話題の内容を捉え、それに対して「私は～考える。なぜなら～ためである。」というような自分の考えとそれを支える理由や事例の関係に気を付けて書くよう指導していく。

【第5学年】話の中心が明確になるように構成を考える

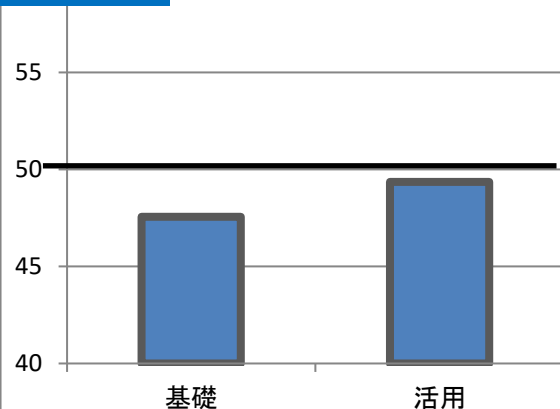
話の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることに課題がある。書こうとしている材料の中から、中心に述べたいことを一つに絞ること、考えとそれを支える理由などの段落と段落の関係に注意することなどを意識して文章の構成を考えられるよう指導していく。

【第6学年】登場人物の心情について描写を基に捉える

描写を基に登場人物の相互関係や気持ちを読み取ることに課題がある。直接的に描写されている場合だけでなく、行動や会話、情景などを通して暗示的な表現の仕方にも注意して読むことを意識させていく。また、多様な本や文章などを読む機会を普段の授業から取り入れ、身に付けさせていく。

社会に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

各学年、3つの観点についてほとんどが目標値を下回っている。特に、「知識・技能」の項目が相対的に低い傾向がある。資料の読み取りや基本的な知識の定着が課題である。

【今後の方策】

基本的な知識の定着を図るために、学習の振り返りを文章にまとめる活動を行う。

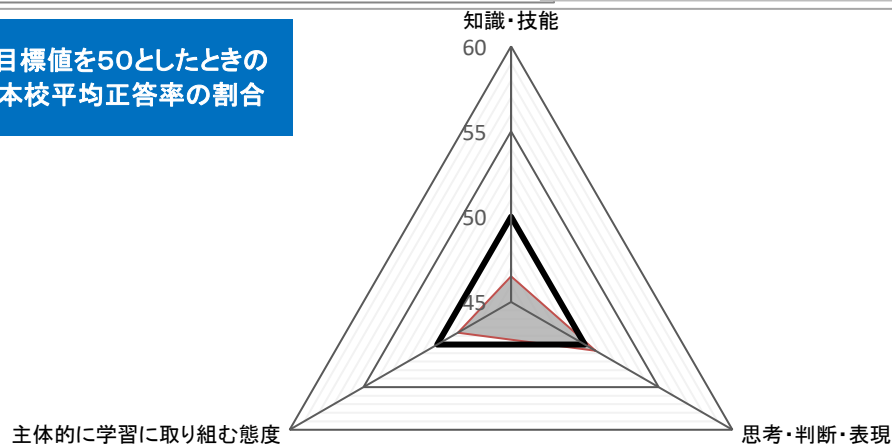
資料の読み取りについては、読み取りのポイントをおさえたり、他教科でも様々な資料を扱うなど、資料を読み取る機会を増やしたりしていく。

インターネットやSNSの利便性や危険性への理解が低いことについては、実際に起きた事件を紹介したり、講話を聴いたりして児童の意識を高めていく。

【次年度の目標】

全ての観点別正答率について、目標値を上回ること

目標値を50としたときの
本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第4学年】基礎・基本の定着と情報を適切に活用してまとめる活動に取り組む。

基本的な地図記号の理解や、地図を読み取ることに課題がある。毎回の授業での基本的な内容の定着を図る。

資料を読み取ったり、複数の資料から必要な情報を得たりすることに課題がある。学年終了時まで、資料を丁寧に読み取ったり、複数の資料を活用して分かったことを文章や図などでまとめたりする機会を増やす。

【第5学年】基礎・基本の定着と情報を適切に活用してまとめる活動に取り組む。

清掃工場の仕組みについての理解が十分ではないので、基礎的な学習内容の定着を図る。

資料を読み取ったり、複数の資料から必要な情報を得たりすることに課題がある。各単元終了時まで、様々な資料から読み取ったことを文章で表現したり、学習の振り返りを文章にまとめたりする活動を通して、情報を活用して考える力を高める。また、学年終了時まで、他教科でも資料を読み取る活動を取り入れることも考えられる。

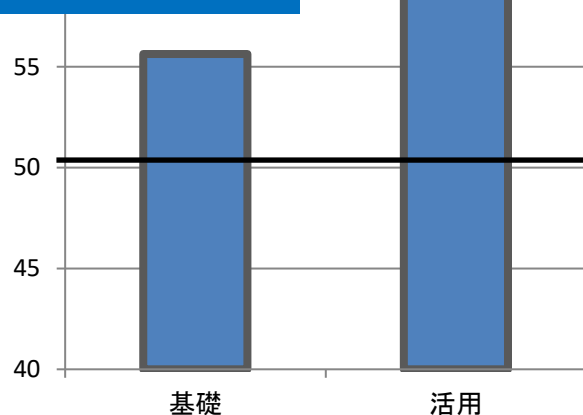
【第6学年】基礎・基本の定着と情報を適切に活用してまとめる活動に取り組む。

資料の読み取りや一部の知識・理解の定着に課題がある。各単元終了時まで、様々な資料から読み取ったことを文章で表現したり、学習の振り返りを文章にまとめたりする活動を増やす。

インターネットやSNSの利便性や危険性への理解が低いことに課題がある。実際に起きた事件などを社会科の授業以外でも紹介したり、講話を聴いたりすることで、児童のインターネットへの意識を高めていきたい。

算数に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

観点別正答率では、全ての項目で目標値を超えている。基礎基本の定着を大切にしながら発展的な学習課題にも取り組んできたことが効果を挙げていると考えられる。細かく見ていくと、ほとんどの学年で基本的な学習事項は理解できているものの習熟が十分であるとはいえないことや正確な問題の読み取りや図式化する力が弱いことなどが課題として挙げられることが分かった。原因として問題文や資料から必要な情報を取り出す力や図や表などに表す力が十分身に付いていないことなどが考えられる。

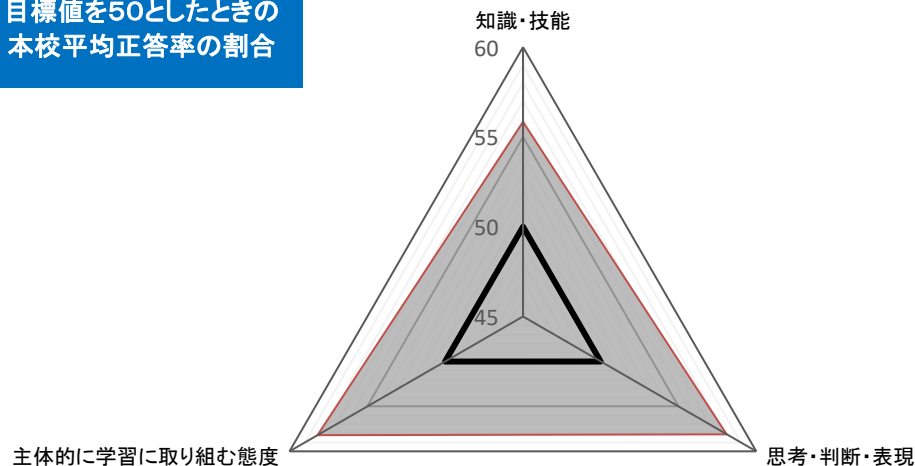
【今後の方策】

問題文の大切なところに下線を引かせたり、図式化させたりして、問われている内容を正確に掴むことができるようにする。また、今回の調査で課題となった内容については、タブレットのeライブラリやQubenaなどを活用し繰り返し学習する。

【次年度の目標】

各学年が全ての観点別正答率において、目標値を上回ることを目標とする。

目標値を50としたときの 本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第2学年】文章から必要な情報を見つけ、答えを求める。

問題から必要な情報を見つけることに課題がある。文章の理解を促すために必要な箇所に線を引いたり、図に表したりすることで、題意を捉えさせる。また、文章量のある問題に慣れていないことも課題の一つとして考えられるので、取り組む機会を増やすようにする。各単元で、行うと共に、学年末のまとめ学習の際にも、文章から必要な情報を取り出す問題に取り組んでいく。

【第3学年】かっこを使った式の表し方を理解している。

計算のきまりは理解できているが、それを活用して計算を工夫することに課題がある。問題文を丁寧に読み取り、それを図に表して問題場面の状況を正しく読み取り、立式する活動を積み重ねていくようにする。3学期の「□を使った式」の単元で特に重点的に指導すると共に学年末のまとめ学習でも、図式化する活動に取り組むようにする。

【第4学年】わり算のあまりの意味について理解している。

わり算のあまりの処理の仕方に課題がある。あまりを除外して考える問題とあまりも含めて考える問題があるため、その違いを十分に理解できていないと考えられる。わり算のあまりの意味について確認し、類似の問題に取り組ませ、あまりの意味とその処理の仕方を習熟させる。各単元で、題意を正しく読み取る活動を行うと共に、学期末や学年末の学習のまとめの際に、復習問題に取り組むようにする。

【第5学年】指定された方法で図形の作図をする。

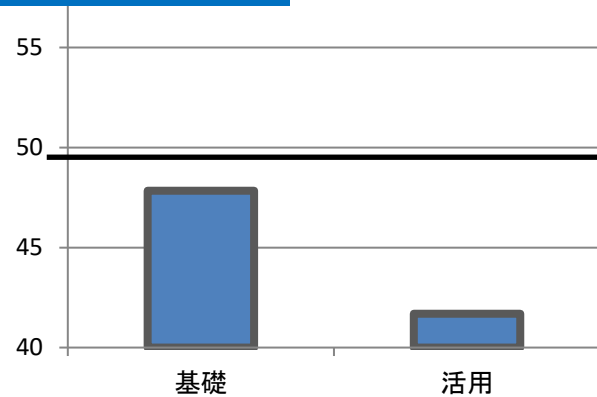
図形の特徴を理解し、指定された方法でコンパスや三角定規などの道具を正しく操作して作図することに課題がある。何通りかある作図の仕方をしっかり身につけないと条件に合った方法で作図することはできない。図形の特徴を理解し、作図する経験を増やし、正しく作図する力を定着させる。学期末や学年末の学習のまとめの際に、作図問題に取り組む。また、6年生の図形単元の前に作図の復習を行うようにする。

【第6学年】グラフを読み取り、数値を比較する。

複数の資料を総合的に読み取ることに課題がある。さらに読み取った数値を比較する際に必要な割合の理解も十分とはいえない。割合は、5年生の学習事項の中でも理解と習熟が難しい内容なので、資料を読み取る問題と合わせて、学期末のまとめ、家庭学習、個別学習などで、重点復習項目として取り上げ、定着を図るようにする。3学期に6年間の学習をまとめる単元があるので、その中で複数の資料を読み取る課題や割合の問題に取り組み、卒業までに習熟度が上がるようにする。

理科に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

実験にはとても意欲的に取り組んでいるが、知識や用語の習得に結び付いていない。

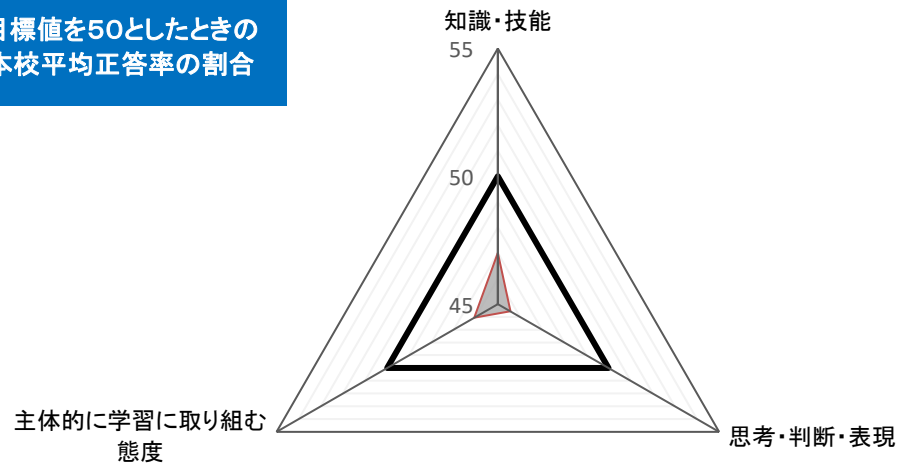
【今後の方策】

実験内容だけでなく、習得内容の確認、用語の確認を定期的に行う必要がある。

【次年度の目標】

知識・技能を身に付けさせるように意識的に指導を行い、特に活用の問題に対して答えられるようにする。また、実験結果から考察し考えたことを交流する時間を設ける。

目標値を50としたときの
本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第4学年】

ある事象をもとに、ほかのものに置き換えて推測する問題や、実験の方法をもとに、磁石の性質を考える問題について、正答率が目標値に対して著しく下回っている。よって、ある事象について共通点や相違点などを挙げさせ、統合的に考える力を身につけさせる。また、一つの事象を考察し、考えたことを交流する機会を増やす。

【第5学年】

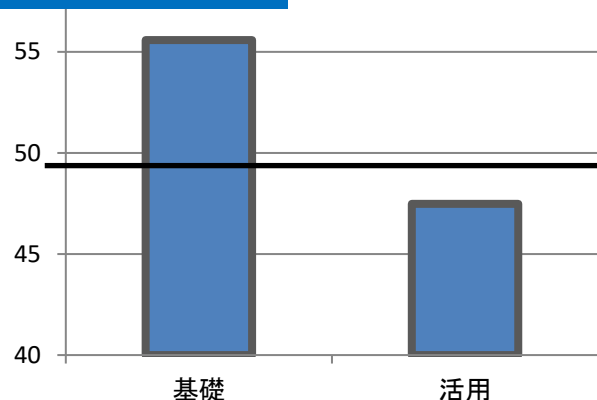
知識の定着に課題がある。よって、授業の中での振り返りを大切にする。実験をする際には、どのように行ったらよいかを問いかけながら実験を計画していく。そうすることで、実感を伴った理解ができると考える。また、日常生活と関連づけることに課題があるため、実験結果から考察し、考えたことを交流する時間を設ける。

【第6学年】

実験の条件を整えることに課題がある。よって、実験の方法や条件について視覚的な教材を使い、理解しやすいようにしたり、実験結果から考察し、考えたことを交流する時間を増やしたりする。

英語に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

知識・技能の項目で全国正答率を上回ることができていた。大問1～大問9の聞き取りの問題では、ほとんどが目標値を上回っていた。特に英語を聞き取って回答するような基礎を活用する問題では目標値を上回り、一定の成果を認めることができた。

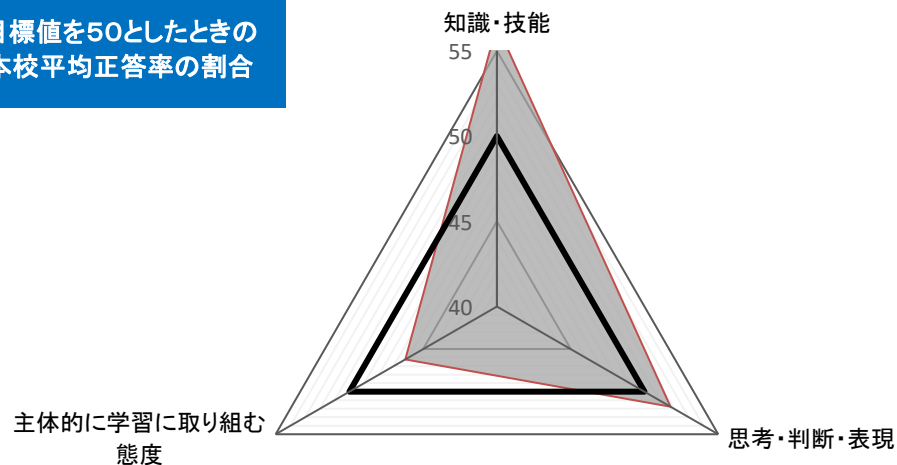
【今後の方策】

英語を見て表記することに課題が見受けられる。大問12～14の質問に対して英作文を作る問題では、目標値を下回る項目が見受けられた。アルファベットを書く活動を繰り返し行い細かく評価したり、Qubena等のICT機器を用いて苦手な単語を一人一人に合わせて抽出し、書き取りの練習させたりして、書くことに慣れ親しませていく。

【次年度の目標】

すべての観点別正答率について、目標値を上回ることを目標とする。

目標値を50としたときの 本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第6学年】

聞き取りの問題においてはいずれの項目も目標値を上回り、成果を見取ることができた。今後もJoint Storytelling等の学習活動を通して、体系的・系統的にリスニング能力を伸ばしていきたい。

一方、アルファベットを表記したり、英作文を作ったり書いたりすることには課題が見られた。中学年からアルファベットの大文字や小文字に親しむ活動が取り入れられているので、繰り返し指導したり、細かく評価をしたりして、文字や英文に慣れ親しませたい。英作文の練習としては、Qubena等のICT機器を用いて苦手な単語の書き取りを繰り返し練習させたり、授業にグループワークや発表を取り入れて児童が自ら主体的に参加できるように工夫したりすることによって、力を伸ばしていきたい。

中学校進学に向けて、基礎的な力が定着するようにしたい。